

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

04.01.2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2003年12月26日

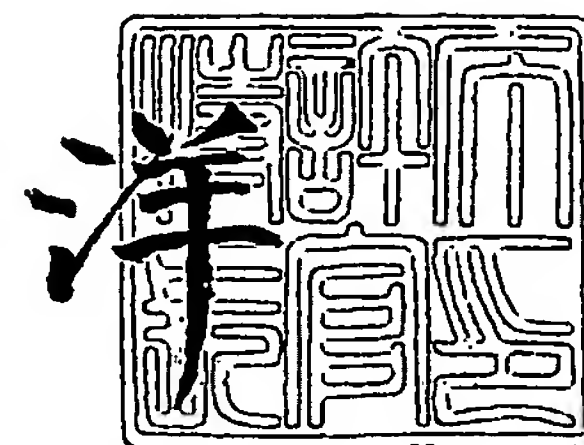
出願番号  
Application Number: 特願2003-434840  
[ST. 10/C]: [JP2003-434840]

出願人  
Applicant(s): 松下電器産業株式会社

2005年 2月18日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願  
【整理番号】 2130050498  
【提出日】 平成15年12月26日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 G11B 7/00  
【発明者】  
    【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内  
    【氏名】 田坂 修一  
【発明者】  
    【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内  
    【氏名】 山口 博之  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000005821  
    【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 110000040  
    【氏名又は名称】 特許業務法人池内・佐藤アンドパートナーズ  
    【代表者】 池内 寛幸  
    【電話番号】 06-6135-6051  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 139757  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1  
    【包括委任状番号】 0108331

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

データ領域と、前記データ領域の外周に設けられたリードアウト領域と、前記データ領域の内周側に設けられたリードイン領域と、前記リードイン領域よりも内周側に設けられテスト記録パターンが記録される第 1 のパワー校正領域と、前記第 1 のパワー校正領域に関する記録管理情報が記録される記録管理領域とを備えた情報記録媒体であって、

前記データ領域と前記リードアウト領域との境界部に、第 2 のパワー校正領域を備えることを特徴とする情報記録媒体。

**【請求項 2】**

前記第 2 のパワー校正領域に関する記録管理情報も前記記録管理領域に記録される、請求項 1 に記載の情報記録媒体。

**【請求項 3】**

前記第 2 のパワー校正領域に関する記録管理情報を記録する第 2 の記録管理領域を、前記データ領域と前記リードアウト領域との境界部に備えた、請求項 1 に記載の情報記録媒体。

**【請求項 4】**

前記第 2 のパワー校正領域は、前記データ領域へのデータ記録速度が所定の速度以上の場合にテスト記録パターンが記録される、請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の情報記録媒体。

**【請求項 5】**

前記第 2 のパワー校正領域は、前記データ領域へのデータ記録速度が、当該データ領域への過去の記録速度を超える場合にテスト記録パターンが記録される、請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の情報記録媒体。

**【請求項 6】**

前記第 2 のパワー校正領域が、前記データ領域と前記リードアウト領域との間に設けられた、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の情報記録媒体。

**【請求項 7】**

前記第 2 のパワー校正領域が、前記データ領域の一部である、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の情報記録媒体。

**【請求項 8】**

前記第 2 のパワー校正領域が、データ領域における記録可能な最外周位置から少なくとも 0. 2 mm 外周側に環状に設けられた、請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の情報記録媒体。

**【請求項 9】**

請求項 1 ～ 8 のいずれか一項に記載の情報記録媒体の前記データ領域に所望のデータを記録する情報記録再生装置であって、

前記情報媒体を回転する回転手段と、

前記情報記録媒体へ光を照射することにより情報の記録または情報の再生を行う光ピックアップと、

前記情報記録媒体の第 1 および第 2 のパワー校正領域の少なくとも一方へ前記光ピックアップを移動させて、前記光ピックアップによる照射パワーの校正を実行する制御手段とを備えることを特徴とする情報記録再生装置。

**【請求項 10】**

前記回転手段による前記情報媒体の回転速度を制御する回転制御手段をさらに備え、

前記制御手段が、前記回転制御手段から前記情報記録媒体の回転速度情報を取得し、取得した回転速度情報に応じて、前記光ピックアップによる照射パワーの校正を第 1 および第 2 のパワー校正領域のいずれにおいて実行するかを決定する、請求項 9 に記載の情報記録再生装置。

**【請求項 11】**

前記回転速度情報が表す速度が所定速度を越える場合、前記制御手段が、前記光ピックア

ップによる照射パワーの校正を前記第 2 のパワー校正領域において実行する、請求項 1 0 に記載の情報記録再生装置。

【請求項 1 2】

記録動作を開始する度に、前記第 1 のパワー校正領域に記載されているテスト記録パターンのうち最新のテスト記録パターンを、前記第 2 のパワー校正領域に複写する手段をさらに備えた、請求項 9 ～ 1 1 のいずれか一項に記載の情報記録再生装置。

【請求項 1 3】

前記データ領域からデータを消去するとき、前記第 2 のパワー校正領域に記載されているテスト記録パターンのうち、前記消去対象のデータに対応するテスト記録パターンを消去する手段をさらに備えた、請求項 9 ～ 1 2 のいずれか一項に記載の情報記録再生装置。

【請求項 1 4】

前記情報記録媒体の記録管理領域に、前記データ領域の記録可能な領域の範囲を表す情報が含まれ、

前記情報記録再生装置が、

前記データ領域の記録可能な領域の範囲を表す情報を、前記情報記録媒体における当該記録可能な領域の最外周が内周側へ移動するよう変更する手段をさらに備えた、請求項 9 ～ 1 3 のいずれか一項に記載の情報記録再生装置。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報記録媒体及び情報記録再生装置

【技術分野】

【0 0 0 1】

本発明は、光ディスク等の情報記録媒体およびこれを用いて記録／再生を行う情報記録再生装置に関し、特に、記録パワー校正領域を有する情報記録媒体とそれを用いる情報記録再生装置に関する。

【背景技術】

【0 0 0 2】

光学的に情報信号を情報層にデジタル記録し、記録マークまたは記録ピット（以下、記録マークと称する）により情報層に記録された情報信号を再生できる情報記録媒体は、当該記録マークの品質及び検索性の高さに普及している。また、近年動画等のように大容量の情報信号を記録する要請に応えるべく、1枚に記録できる情報量を高めた高密度記録媒体としてDVD（デジタル・バーサタイル・ディスク）が提案され、市場ニーズに合致した点で受け容れられている。また、例えばコンピュータプログラムを予め記録した再生専用の情報媒体（例えば、CD-ROM等）と同様に、この記録可能なDVD（以下、記録型DVDと称す）も、再生速度及び記録速度の高速化が要望されている。ところで、記録密度を高めるためには線速度一定（CLV）方式が有利であるため、記録型DVDを記録再生する記録再生装置では、CLV方式を基本とした記録方式（以下、ZCLV方式等も含めCLV方式またはCLV記録方式と称す）が開発され採用されている。

【0 0 0 3】

一方、記録型DVDは、前述したように大容量の情報信号を記録するために、記録密度が高くなるよう設計されているが、高記録密度を有しているがため、記録型DVDの製造メーカーが推奨する記録速度や記録パワー等の記録情報、記録に際しての記録型DVDと記録再生装置との相性及び／または記録型DVDに記録した記録再生装置の情報を、当該記録型DVDに記述すること等が要請されている。このため、データ領域（Data Recordable area）の内周のリードイン領域の更に内周に、記録管理情報を記述した記録管理領域（Recording Management Area）と、データ領域に記録した際の記録速度や照射するレーザパワー等を記述したパワー校正領域（Power Calibration Area）とを備えている。このパワー校正領域は、記録管理領域の内周側に設けられ、記録速度が目標値に達した時点で、当該記録速度で情報層に照射するレーザパワー等の情報を記述する領域である。この情報は、記録再開時の記録速度に応じた照射パワーの学習のために、履歴として残される。

【0 0 0 4】

前述したように記録再生装置はCLV方式で記録するため、記録型DVDを回転させるスピンドルモータの回転数は、内周になるほど高速回転となる。従って、記録型DVDの最内周に備えるパワー校正領域では例えば4倍速の記録速度には記録履歴情報の記述はできるが、8倍速、16倍速のように高速化が進行するとスピンドルモータの回転に限界を来し追従できなくなり、記録履歴をパワー校正領域に記述できなくなると言う問題が想定される。

【0 0 0 5】

このようにパワー校正領域を最内周に備えるだけでは、高速化の要請に対して何れ対応できなくなる事態を鑑み、非特許文献1では、内周のドライブ領域（Inner Drive Area）の内周ディスクテスト領域（Inner Disc Test Zone）では対応できない記録履歴情報を記述する領域として、リードアウト領域の外周側に外周ドライブ領域（Outer Drive Area）を新たに設け、当該外周ドライブ領域の外周ディスクテスト領域（Outer Disc Test Zone）に高速記録速度に対応できる記録履歴情報を記述する構成で対応している。

【0 0 0 6】

例えば、図6、7は、従来の光ディスクの断面概念図であって、図6はDVD-Rの内



周側の記録領域、図 7 は DVD+RW の外周側の記録領域の概念図を示す。DVD-R の場合、リードインエリアの内周側に RMA 領域と OPC 領域が設けられている。情報記録再生装置は、データ記録開始に最適記録パワー校正 (OPC、Optimum Power Calibration) を行い、それにより半導体レーザの記録パワーを決定する。ここで、OPC とは、光ディスクに所定のテスト記録マークを試し書きし、そのテスト記録マークから再生されたアナログ信号の  $\beta$  値に基づいて半導体レーザの記録パワーを校正する操作をいう。OPC 情報とは、OPC に関する情報で、OPC 時の記録パワー条件と記録ストラテジを含む。また、DVD-RAM や DVD+RW の場合、内周側と外周側にディスクテストゾーンと呼ばれる OPC 領域が設けられているが、図 7 は外周側のみ図示している。データ容量がフルに記録された時、データ領域が半径 58mm までで、その後、リードアウト領域が半径 58.0 ~ 58.05mm に記録され、ディスクテストゾーンは半径 58.1 ~ 58.3mm に記録される。

【非特許文献 1】「DVD+R 4.7 Gbytes Basic Format Specifications version 1.2」(2003 年 7 月発行) (第 48 頁 16.1 Physical Sector Numbers (PSNs) Figure 22、第 49 頁 Table 7 の Outer Drive Area 欄の Outer Disc Test Zone、第 60 頁 21.3 Outer Disc Test Zone、及び第 117 頁 ~ 第 119 頁 Annex H Optimum Power Control and Recording Conditions)

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

ところが、記録再生光を透過する基板は、記録型 DVD に限らず、ポリカーボネイト等の樹脂を射出成形することにより形成される。この射出成形で樹脂を射出するノズルは、成形型全面に樹脂が行き渡るように内周近辺に設けられている。しかしながら、成形型の表面にはトラックやエンボス等の複雑な形状を備えているため、成形型全面に樹脂が行き渡るように設計したとしても、基板の内周部と外周部とでは樹脂の供給量が異なり、外周部の成形精度が劣る。これにより、ディスク外周部の平面精度及び／またはトラックの成形精度は、内周部に比べると低下する。

【0008】

また、従来、記録型 DVD の情報層の主成分は、周知のように、書換可能型ディスクの場合は無機材料であり、追記型ディスクの場合は有機色素である。無機材料による情報層の形成には、スパッタまたは真空蒸着等のいわゆる気相堆積法が適用されるが、有機色素の場合は、一般的に、回転した基板に有機色素溶液を滴下する、いわゆるスピンコート法が適用されている。このスピンコート法は、基板の回転により発生する遠心力を利用するため、有機色素溶液は基板の内周部から滴下する。従って、特に有機色素溶液をスピンコートして形成する情報層を有する追記記録型 DVD (いわゆる DVD-R、DVD+R) では、外周側の情報層は内周の情報層に比べて色素溶液の供給量が不足する傾向にあるため、情報層の膜質が低下する。

【0009】

さらに、記録型 DVD に限らず樹脂成形した基板を適用した情報記録媒体の平面度は、例えばガラスのような無機材料より低い。これに起因して、ディスクの回転時に、「面ぶれ」と称される、回転軸方向にディスク面が上下動する現象が発生する。この面ぶれ現象は、外周になるほど、また、回転速度が高速になるほど大きくなる。従って、高速で外周に情報を記録する際に、面ぶれが問題となる可能性がある。

【0010】

以上のように、重要な情報を記述する領域としては、内周の方が適性が高く、外周になるほど信頼性の観点では劣る。従って、非特許文献 1 に開示のように、記録型 DVD の最外周に外周ディスクテスト領域 (Outer Disc Test Zone) を新たに

設け、記録速度に対応する照射パワー等の情報（記録履歴情報）を記録する従来の構成では、この情報について信頼性の保証ができないという課題がある。

【0011】

また、記録型DVDで情報信号を記録できる情報領域（Information Area）は、一般的に、パワー校正領域、記録管理領域、リードイン領域、データ領域、及びリードアウト領域を言うが、前記従来の構成では、リードアウト領域の更に外周までも記録を補償する情報領域の範囲を拡大しなければならないという課題もある。

【0012】

本発明は、係る従来提案されている構成が本質的に有する課題を解決し、信頼性が高いパワー校正領域を備えた情報記録媒体を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0013】

上記の目的を達成するために、本発明にかかる情報記録媒体は、データ領域と、前記データ領域の外周に設けられたリードアウト領域と、前記データ領域の内周側に設けられたリードイン領域と、前記リードイン領域よりも内周側に設けられテスト記録パターンが記録される第1のパワー校正領域と、前記第1のパワー校正領域に関する記録管理情報が記録される記録管理領域とを備えた情報記録媒体であって、前記データ領域と前記リードアウト領域との境界部に、第2のパワー校正領域を備えることを特徴とする。

【発明の効果】

【0014】

本発明にかかる情報記録媒体は、データ領域とリードアウト領域との境界部に、第2のパワー校正領域を設けたことにより、従来のようにリードアウト領域よりも外周側にパワー校正領域を設けた記録媒体と比較して、面振れ等の機械特性がより良好な領域でパワー校正を行うことが可能となる。これにより、情報記録再生装置が、最適な記録パワーを確実にかつ短時間で決定できるという利点がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

本発明にかかる情報記録媒体は、データ領域と、前記データ領域の外周に設けられたリードアウト領域と、前記データ領域の内周側に設けられたリードイン領域と、前記リードイン領域よりも内周側に設けられテスト記録パターンが記録される第1のパワー校正領域と、前記第1のパワー校正領域に関する記録管理情報が記録される記録管理領域とを備えた情報記録媒体であって、前記データ領域と前記リードアウト領域との境界部に、第2のパワー校正領域を備えた情報記録媒体である。

【0016】

上記の情報記録媒体において、前記第2のパワー校正領域に関する記録管理情報は、前記記録管理領域に記録される構成としても良いし、前記第2のパワー校正領域に関する記録管理情報を記録する第2の記録管理領域を、前記データ領域と前記リードアウト領域との境界部に備えた構成としても良い。

【0017】

上記の情報記録媒体において、前記第2のパワー校正領域は、前記データ領域へのデータ記録速度が所定の速度以上の場合にテスト記録パターンが記録される領域として用いられることが好ましい。また、前記第2のパワー校正領域は、前記データ領域へのデータ記録速度が、当該データ領域への過去の記録速度を超える場合にテスト記録パターンが記録される領域として用いられることも好ましい。

【0018】

上記の情報記録媒体において、前記第2のパワー校正領域は、前記データ領域と前記リードアウト領域との間に設けられた構成としても良いし、前記データ領域の一部である構成としても良い。

【0019】

また、上記の情報記録媒体において、前記第2のパワー校正領域が、データ領域におけ



る記録可能な最外周位置から少なくとも 0.2 mm 外周側に環状に設けられた構成とすることが好ましい。

【0020】

また、上記の目的を達成するために、本発明にかかる情報記録再生装置は、上記のいずれかの構成にかかる情報記録媒体の前記データ領域に所望のデータを記録する情報記録再生装置であって、前記情報媒体を回転する回転手段と、前記情報記録媒体へ光を照射することにより情報の記録または情報の再生を行う光ピックアップと、前記情報記録媒体の第 1 および第 2 のパワー校正領域の少なくとも一方へ前記光ピックアップを移動させて、前記光ピックアップによる照射パワーの校正を実行する制御手段とを備えている。

【0021】

上記の情報記録再生装置は、前記回転手段による前記情報媒体の回転速度を制御する回転制御手段をさらに備え、前記制御手段が、前記回転制御手段から前記情報記録媒体の回転速度情報を取得し、取得した回転速度情報に応じて、前記光ピックアップによる照射パワーの校正を第 1 および第 2 のパワー校正領域のいずれにおいて実行するかを決定することが好ましい。なお、取得した回転速度情報の代わりに、記録時に採用される回転速度を予想し、予想される回転速度情報に応じて、第 1 および第 2 のパワー校正領域のいずれにおいてパワー構成を実行するかを決定するようにしても良い。

【0022】

上記の情報記録再生装置は、前記回転速度情報が表す速度が所定速度を越える場合、前記制御手段が、前記光ピックアップによる照射パワーの校正を前記第 2 のパワー校正領域において実行することが好ましい。

【0023】

上記の情報記録再生装置は、記録動作を開始する度に、前記第 1 のパワー校正領域に記載されているテスト記録パターンのうち最新のテスト記録パターンを、前記第 2 のパワー校正領域に複写する手段をさらに備えたことが好ましい。

【0024】

上記の情報記録再生装置は、前記データ領域からデータを消去するとき、前記第 2 のパワー校正領域に記載されているテスト記録パターンのうち、前記消去対象のデータに対応するテスト記録パターンを消去する手段をさらに備えたことが好ましい。

【0025】

上記の情報記録再生装置は、前記情報記録媒体の記録管理領域に、前記データ領域の記録可能な領域の範囲を表す情報が含まれ、前記情報記録再生装置が、前記データ領域の記録可能な領域の範囲を表す情報を、前記情報記録媒体における当該記録可能な領域の最外周が内周側へ移動するよう変更する手段をさらに備えたことが好ましい。

【0026】

以下、本発明の情報記録媒体および情報記録再生装置について、より具体的な実施形態を説明する。

【0027】

近年、光学式情報記録技術、すなわち、記録可能型光ディスクへのデータ記録技術が著しく発展している。それに伴い、光学式記録再生装置すなわち光ディスク記録再生装置が各種開発されている。特に、例えば DVD-RAM ドライブのように、コンピュータの外部記録装置等として応用されたものが、既に広く普及し始めている。

【0028】

記録可能型光ディスクは、追記型光ディスクと書換型光ディスクとに分類される。追記型光ディスクとは、データを一回のみ記録可能な光ディスクをいう。追記型光ディスクは CD-R (Recordable) と DVD-R と DVD+R を含む。

【0029】

追記型光ディスクでの記録マークの作成は次の通りに行われる。記録層が有機色素を含む。その有機色素は所定のパワーのレーザを照射されると分解する。その結果、特にその光学的反射率が低下する。こうして、レーザ照射を受けた記録層の部分が記録マークとな



る。

#### 【0030】

追記型光ディスクではデータの記録が次の理由で一回に限られる。記録マークの作成時、記録層のレーザ照射部分で多量の熱が生じる。その熱は周囲の樹脂等を変形させる。それらの変形は不可逆的であるので、レーザ照射前の状態に戻すことができない。それ故、追記型光ディスクでは、データの記録が一回に限られる。

#### 【0031】

書換型光ディスクとは、データを書き換えて多数回記録可能な光ディスクをいう。書換型光ディスクはCD-RW (Re-Writable)、DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RW等を含む。

#### 【0032】

書換型光ディスクの内、相変化記録方式によるものでは、記録マークの作成が次の通りに行われる。記録層は、結晶相とアモルファス相との二種類の固相を有する合金を含む。この記録層の光学的反射率は、結晶相では高く、アモルファス相では低い。従って、記録層の内、アモルファス相の部分が記録マークである。記録マークの作成、すなわち、結晶相からアモルファス相への転移は、次のようにして実現する。記録層に対して比較的高いパワーのレーザをパルス照射する。それにより、記録層の狭い範囲が融点以上の温度まで瞬間的に加熱され、その直後ガラス化点以下の温度まで急冷される。その結果、記録層のその狭い範囲がアモルファス相へ転移する。

#### 【0033】

更に、相変化記録方式による書換型光ディスクでは、既存の記録マークを次のようにして消去できる。記録マークは、上記の通り記録層のアモルファス相部分である。従って、記録マークを消去するには、記録マークの範囲でアモルファス相から結晶相へ転移させれば良い。アモルファス相から結晶相への転移は、次のようにして実現する。回転中の書換型光ディスクの記録層に対して比較的低いパワーのレーザを比較的長時間照射する。それにより、記録層の広い範囲が、ガラス化点より高く融点を超えない程度の温度、まで加熱される。その時、加熱された記録層の範囲は加熱後ゆっくりと冷える。その結果、記録層のその広い範囲が結晶相へ転移する。こうして、書換型光ディスクでは既存の記録マークを消去できる。

#### 【0034】

相変化記録方式による書換型光ディスクへの実際のデータ記録では、レーザを上記の高いパワーと低いパワーとの間で切り換えながら照射する。それにより、記録マークの消去と作成とを同時に実行して、データを光ディスクに上書きできる。

#### 【0035】

以下、本発明を実施するための形態について、その好ましい実施例を挙げて、図面を参照しつつ、詳細に説明する。

#### 【0036】

(情報記録媒体)

図1に、本発明の情報記録媒体の一実施形態にかかる光ディスク(DVD-R)の記録領域の概念図を示す。なお、図1は、本実施形態にかかるDVD-Rの外周側の記録領域を示すものである。

#### 【0037】

図1に示すように、本実施形態にかかるDVD-Rは、リードアウトエリア60よりも内周側に、記録履歴情報を記述する外周PCA70(第2のPCA)を有する。なお、図1には示されていないが、このDVD-Rは、ユーザエリア50よりも内周側にリードインエリアを備え、そのさらに内周側に記録管理領域(RMA)と内周PCA(第1のPCA)とを備えている。

#### 【0038】

なお、本実施形態では、DVD-R上のインフォメーションエリアをユーザエリア50とリードアウトエリア60とに分類し、リードエンドデータ54および外周PCA70が

ユーザエリア 5 0 の一部であるものとして説明する。しかし、将来の規格では、リードエンドデータ 5 4 および外周 P C A 7 0 を含む領域が、「ユーザエリア」とは別の領域として定義される可能性もある。

#### 【 0 0 3 9 】

図 1 において、内周側の図示は省略されているが、ユーザエリアには、内周側から外周側へ向かって、順次、ユーザデータ 5 1 が記録されており、この D V D - R に対して最後に記録されたユーザデータが、参照符号 5 2 で表されるユーザデータ（最終ユーザデータ）である。最終ユーザデータ 5 2 の外側には、ボータアウト 5 3 が記録されている。なお、ボータアウトについては後述する。図 1 の例では、ボータアウト 5 3 の後端のアドレスが、ユーザデータ 5 1 の最終アドレスである。最終ユーザデータ 5 2 およびそのボータアウト 5 3 の外側には、リードエンドデータ 5 4 が記録され、そのさらに外側に、外周 P C A 7 0（第 2 の P C A）が設けられている。リードエンドデータ 5 4 は、ユーザデータ 5 1 および外周 P C A 7 0 との境界を明確にするためのデータであるので、これらと識別が可能であることを条件として、任意のデータを用いることができる。

#### 【 0 0 4 0 】

従来の D V D - R では、データ領域（ユーザエリア）が半径 5 8 m m まで、リードアウト領域が 5 8 . 0 ~ 5 8 . 5 m m であったが、本実施形態の D V D - R は、従来ランドブリット情報のコピーであった R M D 情報の記録可能なデータ領域の最終アドレスを書き換えることで、データ領域のラストアドレスを、半径 5 8 m m 位置よりも内周側に変更する。これによって、ユーザデータの記録は R M D 情報の最終アドレス位置で終了し、その後にはリードエンドデータ 5 4 を記録しても、外周 P C A 7 0 を上書きすることはない。

#### 【 0 0 4 1 】

本実施例ではユーザデータは半径 5 7 . 7 m m まで、リードエンドデータ 5 4 は半径 5 7 . 9 m m まで、外周 P C A は半径 5 7 . 9 ~ 5 8 . 0 m m としている。つまりリードアウト領域は幅 0 . 2 m m、外周 P C A は幅 0 . 1 m m となる。データ容量はリードアウト領域で約 1 0 0 M B、P C A で約 2 0 M B となる。リードエンドデータ 5 4 の領域は、D V D プレイヤーが再生時に検出できればよいので、互換性が確保できれば、幅 0 . 1 m m にすることも可能である。その際は、ユーザデータは 5 7 . 7 m m まで、リードエンドデータは 5 7 . 8 m m まで、外周 P C A は 5 7 . 8 ~ 5 7 . 9 m m となり、より内周側に外周 P C A を構成することができる。

#### 【 0 0 4 2 】

図 2 は、本実施形態にかかる情報記録媒体としての D V D - R の記録領域上の物理フォーマットを示す図である。特に、図 2 の（a）は D V D - R の記録領域全体の物理フォーマットを示す。D V D - R の記録領域は、最内周から外側に向けて順に、R - 情報領域 1 0 0、リードインエリア 2 0 0、データ領域 3 0 0 及びリードアウトエリア 4 0 0 に分割されている。それぞれの領域は、整数個の E C C ブロックから成り、プリピットにより識別される。R - 情報領域 1 0 0 は、記録パワー校正領域（P C A : P o w e r C a l i b r a t i o n A r e a）1 0 1 と記録管理情報領域（R M A : R e c o r d i n g M a n a g e m e n t A r e a）1 0 2 とを含む。

#### 【 0 0 4 3 】

P C A 1 0 1 は、後述の記録ストラテジの補正時、及び、レーザの記録パワーの校正（最適記録パワー校正（O P C : O p t i m u m P o w e r C a l i b r a t i o n））時、所定の記録パターンを試し書きするための領域である。

#### 【 0 0 4 4 】

R M A 1 0 2 は、本実施形態にかかる D V D - R のファイルシステムの情報及び記録管理情報（R M D : R e c o r d i n g M a n a g e m e n t D a t a）を記録した領域である。

#### 【 0 0 4 5 】

リードインエリア 2 0 0 はデータ領域 3 0 0 の先頭を示す所定のデータを記録するための領域である。リードインエリア 2 0 0 のデータは、最初の記録時に記録される一連のデ

ータの記録終了時、すなわち、図 2 の (a) の場合であれば、タイトル T 3 のデータの記録終了時に記録される。

#### 【0 0 4 6】

データ領域 3 0 0 は、記録目的のデータを書き込むための領域である。データ領域 3 0 0 は、記録時ごとにボーダゾーン B<sub>i</sub> ( $i = 1, 2, 3 \dots$ ) で分割されている。ボーダゾーン B<sub>i</sub> は、ディスク内周側のボーダアウトエリア B<sub>i out</sub> と、外周側のボーダインエリア B<sub>i in</sub> と、から成る。二つのボーダゾーン B<sub>i</sub> および B ( $i + 1$ ) の間に、一回の記録時に記録される一連のデータ、すなわち、一つのタイトルのデータが記録される。ボーダアウトエリア B<sub>i out</sub> 及びボーダインエリア B<sub>i in</sub> は、対応するタイトルの記録開始時のリンキング処理で確保される。更に、それぞれの領域へのデータの書き込みは、対応するタイトルの記録終了時に実行される。なお、データ領域 3 0 0 におけるリードアウトエリア 4 0 0 側の末端部には、前述のリードエンドデータが記述されるリードエンド領域 3 1 0 と、外周側の PCA 3 2 0 (第 2 の PCA) とが設けられている。

#### 【0 0 4 7】

リードアウトエリア 4 0 0 は、データ領域 3 0 0 の末尾を示す所定のデータを記録するための領域である。リードアウトエリア 4 0 0 のデータは、データ領域 3 0 0 への書き込みの完了時、すなわち、ファイナライズ処理時に記録される。

#### 【0 0 4 8】

図 2 の (b) は、RMA 1 0 2 内の物理フォーマットの詳細である。RMA 1 0 2 は、例えば、7 0 1 個の ECC ブロックから成る。先頭の ECC ブロックは RMA リードインエリア 1 0 2 a である。RMA リードインエリア 1 0 2 a は、PCA 1 0 1 と、RMD を記録した領域 1 0 2 b<sub>1</sub> ~ 1 0 2 b<sub>700</sub> との間の緩衝領域である。それにより、PCA 1 0 1 上での試し書き時、誤って RMD を上書きして破壊することを防ぐ。領域 1 0 2 b<sub>1</sub> ~ 1 0 2 b<sub>700</sub> は、それぞれ、RMD を一つのタイトルごとに記録するための領域である。

#### 【0 0 4 9】

図 2 の (c) は、一つの RMD 内の物理フォーマットの詳細を示す図である。RMD は、一つの ECC ブロックから成り、それ故、1 6 個のセクタを含む。先頭の 1 セクタはリンキングロスエリアである。リンキングロスエリアには、空白を示す所定のデータ、例えば 0 0 h だけが記録されている。つまり、リンキングロスエリアは、別々の RMD の間の緩衝領域である。それにより、一つのタイトルの記録終了後、別のタイトルの追加記録時、新たな RMD を既存の RMD に上書きすることを防ぐ。

#### 【0 0 5 0】

RMD の残り 1 5 個のセクタは、それぞれフィールドと呼ばれる領域である。それぞれのフィールドには先頭から順に、# 0 から # 1 4 までの番号が付けられている。先頭のフィールド # 0 には、本実施形態にかかる DVD-R の一般的な情報が記録される。例えば、ディスクステータス及びプリピット情報のコピー等が含まれる。二番目のフィールド # 1 には、OPC 関連情報が記録される。

#### 【0 0 5 1】

図 2 の (d) はフィールド # 0 内の論理フォーマットの詳細を示す図である。フィールド # 0 は一つのセクタから成る。従って、フィールド # 0 内に実質的に記録可能なデータは、2 0 4 8 バイト = 2 KB である。それぞれのデータには 1 バイトずつ、バイトポジション (BP) と呼ばれる通し番号 # 0 ~ # 2 0 4 7 が付けられている。

#### 【0 0 5 2】

BP # 0 ~ # 1 には RMD フォーマットコードが、BP # 2 にはディスクステータス (disc status)、BP # 3 にはリザーブが、それぞれ記録される。ディスクステータスは、ディスクの記録モードを示すものであり、未記録、ディスクアットワンス (Disc at once)、インクリメンタルレコーディング (incremental recording)、ファイナライズ (finalized) を識別するものである。

#### 【0 0 5 3】



BP#4～#21には、ユニークディスクID (Unique Disc ID) が記録されている。ドライブがテスト記録した時の年月日、時間が記録されるものである。

【0054】

BP#22～#127には、プリピット情報のコピーが、BP#128～#2047にはリザーブがそれぞれ記録される。図2の(e)は、プリピット情報のコピーの詳細を示す図である。

【0055】

また、プリピット情報は、フィールド#0～#13まで存在し、その内のフィールド#1の情報はRMDの#22～#29まで、フィールド#2の情報はRMDの#30～#37、フィールド#3の情報はRMDの#38～#45、というように、RMDの8バイト毎に、各フィールドの情報が入っている。なお、各フィールドには各記録速度に応じた記録パワー、記録ストラテジ情報が入っている。例えば、フィールド#2～#5は1倍速に関する情報、フィールド#6および#7には2倍速に関する情報、フィールド#8～#13には4倍速に関する情報が入っている。なお、これはあくまでも一例であり、さらに高速の記録速度に関する情報が記録されていても良い。

【0056】

BP#22のフィールドIDは、プリピットフィールド#1に対応し、BP#23にはアプリケーションコードが、BP#24にはディスクフィジカルコードが、それぞれ記録される。ディスクフィジカルコードは、トラックピッチ、線速度、ディスク直径などが記録されるものである。

【0057】

BP#25～#27には、記録可能なデータ領域のラストアドレス情報 (Last Address of Data Recordable area) が、BP#28には、パートバージョン (Part Version) が、BP#29にはリザーブが、それぞれ記録されている。BPデータ領域のラストアドレス情報は、ディスクの外周側の記録可能な範囲を決定するものである。BP#28は、どの規格のバージョンに対応したディスクかどうか識別するためのものである。

【0058】

BP#25～#27に記録されているラストアドレス情報をドライブで書き換えることによって、当該DVD-Rにおいて記録可能なデータ領域の範囲を変更することができる。すなわち、BP#25～#27に記録されているラストアドレス情報を、外周PCAの最内周位置を指すアドレスに書き換えることにより、ユーザデータを記録可能な領域の範囲を内周側へ縮小し、ユーザエリアとリードアウトエリアとの境界部に外周PCAを確保することができる。また、これにより、あるドライブで本実施形態のDVD-Rに記録を行った後、同じDVD-Rに対して他のドライブで記録を行おうとする際に、外周PCAが破壊されることを防止できる。

【0059】

例えば、本発明に対応する新しいドライブが、本発明にかかるDVD-Rの外周PCAにテスト記録パターンを記録した後に、同じDVD-Rを従来の低速記録ドライブ（過去から市場に存在する低速記録ドライブ）に装着した場合、この低速記録ドライブは、外周にPCAが存在することを認識できないため、外周PCAにユーザデータを上書きしてしまうおそれがある。しかし、本発明に対応する新しいドライブが記録を行う度に、外周PCAよりも内周を指すように、RMD情報の中のラストアドレス情報 (BP#25～#27) を書き換えれば、その後に同じDVD-Rを使用する従来の低速記録ドライブは、このラストアドレス情報が指す位置を超えるアドレスにデータを上書きすることはないので、外周PCAが破壊されることを防止できる。

【0060】

8倍速ディスクや16倍速ディスクなど、高速記録に対応したディスクを高速で記録する際は、外周PCAを使用する頻度が高いと考えられる。このため、ドライブがラストアドレス情報を書き換える際、外周PCAがより内周側に構成されるようにラストアドレス



情報を変更することで、より安定した記録条件を求めることができる。もちろん、ディスク製造段階で、ラストアドレス情報をより内周側にして、外周PCAをより内周側に構成させることも可能である。

#### 【0061】

図3に、あるドライブで記録を行った後、同じディスクに他のドライブが記録を行う場合を想定し、それぞれの場合について、どちらのドライブがラストアドレス情報を書き換えるべきかを示す。なお、DVD-Rのレコーディングモードとしては、ディスクアットワンス(Disc at once)モードと、インクリメンタルレコーディング(incremental recording)モードがあるが、ここでは、複数のドライブが1枚のディスクに記録するインクリメンタルレコーディングについて説明する。

#### 【0062】

図3のケース1は、先に記録を行う第1記録ドライブが外周PCAを使用し、それ以降に記録を行う第2記録ドライブも外周PCAを使用する場合である。この場合は、第1記録ドライブが、RMDのラストアドレス情報を、外周PCAの最内周位置より内周側を指すように書き換えることにより、ユーザデータを記録可能なデータ領域のラストアドレスが変更される。そして、第2記録ドライブも、外周PCAを使用する(すなわち外周PCAを正しく認識できるドライブである)ため、外周PCAは上書きされることはない。

#### 【0063】

ケース2は、第1記録ドライブが外周PCAを使用し、それ以降に記録を行う第2記録ドライブが内周PCAのみを使用する場合(すなわち第2記録ドライブが従来のドライブである場合)である。この場合は、第1記録ドライブが、RMDのラストアドレス情報を、外周PCAの最内周位置より内周側を指すように書き換えることにより、ユーザデータを記録可能なデータ領域のラストアドレスが変更される。第2記録ドライブは、内周PCAのみを使用し、外周PCAを使用することはない。また、RMDのラストアドレス情報が外周PCAの最内周位置より内周側を指すように書き換えられているので、第2記録ドライブがこのラストアドレス情報を超えてユーザデータを書くことはないので、外周PCAがユーザデータにより上書きされることはない。

#### 【0064】

ケース3は、第1記録ドライブが内周PCAのみを使用し(すなわち第1記録ドライブが従来のドライブである場合)、それ以降に記録を行う第2記録ドライブが外周PCAを使用する場合である。この場合は、第2記録ドライブが、外周PCAを使用すると共に、RMDのラストアドレス情報を、外周PCAの最内周位置より内周側を指すように書き換えることにより、ユーザデータを記録可能なデータ領域のラストアドレスが変更される。

#### 【0065】

ケース4は、第1記録ドライブが内周PCAのみを使用し、それ以降に記録を行う第2記録ドライブも内周PCAのみを使用する場合である。この場合は、外周PCAは使用されず、従来の低倍速記録動作と同じである。

#### 【0066】

以上のケース1~4より、外周PCAを使用するドライブ(本実施形態にかかるドライブ)と、外周PCAを使用しない(認識しない)従来のドライブとの間で本実施形態にかかるDVD-Rを共用して記録を行ったとしても、全てのケースにおいて外周PCAが確保されることが分かる。

#### 【0067】

図4(a)にDVD-Rの8倍速記録用サンプルディスクの半径位置(最外周部)とジッタの関係を示す。X軸にディスク半径位置、Y軸にジッタを表す。記録条件は同一記録ストラテジで、各位置での最適記録パワーで記録している。半径58.0mmを超えると急激にジッタが悪化しているのが分かる。

#### 【0068】

図4(b)にDVD-Rの8倍速記録用ディスクの半径位置(最外周部)と記録パワーの関係を示す。X軸にディスク半径位置、Y軸に最適記録パワーを表す。記録条件は同一

記録ストラテジで、各位置での最適記録パワーで記録している。半径 5 8 . 0 mm を超えると急激に記録感度が悪化しているのが分かる。

【0 0 6 9】

以上のことから、半径 5 8 . 0 mm より内周側に外周 P C A を設けてパワー校正を行うことにより、より安定した特性が得られる。

【0 0 7 0】

(情報記録再生装置)

次に、上述した実施形態にかかる情報記録媒体（ここでは D V D - R）の情報記録再生装置の例として、D V D - R レコーダをとりあげ、その構成および動作について説明する。

[情報記録再生装置の構成]

本実施形態にかかる情報記録再生装置（D V D - R レコーダ）の構成の一例を、図 8 に示す。

【0 0 7 1】

[再生系]

まず、図 8 に示す情報記録再生装置の再生系について説明する。

【0 0 7 2】

図 8 において、3 0 は光ディスク（ここでは D V D - R）である。光ディスク 3 0 は、スピンドルモータ 1 4 によりその中心軸の周りに回転している。

【0 0 7 3】

光ヘッドすなわちピックアップ 1 は次のようにして、光ディスク 3 0 に対してレーザを照射し、その反射光をアナログ信号へ変換する。半導体レーザ 1 a が所定のパワーのレーザを出力する。その時のパワー（再生パワー）は、光ディスク 3 0 の記録層を変質させない程度に小さい。半導体レーザ 1 a から出力されたレーザ R 1 は、集光レンズ 1 b、スプリッタ 1 c 及び対物レンズ 1 d を通して、光ディスク 3 0 の記録層に焦点を結ぶ。レーザ R 1 は光ディスク 3 0 の記録層で反射される。反射されたレーザ R 2 は対物レンズ 1 d、スプリッタ 1 c 及び検出レンズ 1 e を通して、光検出器 1 f 上に焦点を結ぶ。光検出器 1 f は反射されたレーザ R 2 を検出し、アナログ信号 d 1 へ変換する。その時、アナログ信号 d 1 の振幅は、反射されたレーザ R 2 の強度に実質的に比例している。

【0 0 7 4】

ピックアップ 1 は、ステッピングモータ（図示せず）により、光ディスク 3 0 の半径方向に移動する。それにより、半導体レーザ 1 a から出力されたレーザ R 1 の焦点を光ディスク 3 0 の半径方向に移動させる。

【0 0 7 5】

ヘッドアンプ 2 は、ピックアップ 1 からのアナログ信号 d 1 を増幅して得られるアナログ信号 d 2 を、イコライザ 3 へ出力する。イコライザ 3 は、ヘッドアンプ 2 からのアナログ信号 d 2 の波形を整形する。二値化器 4 は整形されたアナログ信号 d 3 を所定の閾値と比較して、その閾値を境に二値化する。それにより、アナログ信号 d 3 はデジタル信号 d 4 に変換される。位相同期ループ（P L L）5 はデジタル信号 d 4 と所定のクロック信号とを同期させる。データ復調部（図示せず）は、クロック信号と同期したデジタル信号 d 5 からデータを復調する。

【0 0 7 6】

[記録系]

次に、本実施形態にかかる情報記録再生装置の記録系について、一例を説明する。

【0 0 7 7】

記録パターン決定部 8 は、光ディスク 3 0 への記録目的のデータに対応して、記録パターンを決定する。ここで、記録パターンとは、一定の高さの矩形パルス列をいう。記録パターンのそれぞれのパルス幅が記録マークの長さ（マーク長）を、パルス間隔が記録スペースの長さ（スペース長）を、それぞれ示す。

【0 0 7 8】

記録パルス決定部 9 は、記録パターン決定部 8 により決定された記録パターン d 8 に基づいて、記録パルス d 9 を決定する。ここで、記録パルスとは、半導体レーザ 1 a から出力されるレーザパルスと実質的に同じ矩形波形のパルスをいう。記録パルス d 9 の波形は後述の通り、記録パターン d 8 の波形とは異なる。記録パルス d 9 は記録パターン d 8 に基づいて、一定の条件に従って決定される。その一定の条件を記録ストラテジ (Write Strategy) という。その他に、記録パルス条件又は記録パルス構造 (Write Pulse Structure) ともいう。記録ストラテジの詳細については後述する。

#### 【0079】

記録パワー決定部 12 はデータ記録時、半導体レーザ 1 a のパワーを決定する。それにより決定されたパワーの値を記録パワーという。決定された記録パワー d 12 はレーザ駆動部 13 へ出力される。

#### 【0080】

レーザ駆動部 13 は半導体レーザ 1 a への駆動電流 d 13 を制御する。それにより、駆動電流 d 13 は記録パワー d 12 に対応する大きさで半導体レーザ 1 a を流れる。その結果、半導体レーザ 1 a は記録パワー d 12 に相当するパワーのレーザ R 1 を照射する。

#### 【0081】

[記録ストラテジの補正及び記録パワーの校正のための構成]

レーザ照射によって形成される記録マークの形は、記録パルス及び記録パワーだけでは一意には決まらない。例えば、記録層の冷却速度は、記録時の環境温度に依存する。更に、半導体レーザの波長は、半導体レーザの温度変動に実質的に比例して変動する。例えば、DVD-R の記録層に含まれる有機色素の光吸収特性は吸収光の波長に依存するので、レーザの波長の変動は記録層による吸収エネルギーを変動させる。その上、半導体レーザの波長及び光ディスクの構造等は通常、製品ごとに規格値の周辺でばらついている。以上のような変動因子により、記録マークの形は変動する。従って、記録パルス及び記録パワーを規格通りの記録ストラテジ及び記録パワー条件に従って定めるだけでは、記録マークの整形の精度、特にエッジの位置決め精度を十分には上げられない。その結果、実際に記録されたデータのエラーレートを十分に低減できない。そこで、光ディスク及び光ディスク記録再生装置ごとに記録ストラテジを補正し、かつ記録パワーを校正する。それにより、最適な記録パルス及び記録パワーをそれぞれ決定する。

#### 【0082】

従来の光ディスク記録再生装置は、記録ストラテジの補正及び記録パワーの校正を目的として、例えば、以下のような構成を有していた。

#### 【0083】

$\beta$  値算出部 11 は、ヘッドアンプ 2 からの信号 d 2 の  $\beta$  値を算出する。ここで、アナログ信号の  $\beta$  値とは、アナログ信号の極大値 a 及び極小値 b により次式で定義される：

$\beta = (a + b) / (a - b)$ 。つまり、 $\beta$  値は、アナログ信号波形の上下方向での中心値  $((a + b) / 2)$  を振幅  $(a - b)$  で規格化したもの、に相当する。

#### 【0084】

更に、アナログ信号の  $\beta$  値は以下の通り、半導体レーザ 1 a の記録パワーを決定するパラメータである。ピックアップ 1 により再生されたアナログ信号 d 1 は二値化器 4 により所定の閾値を境に二値化される。その時、アナログ信号 d 1 の波形の上下方向での中心値が閾値からずれると、元のデジタルデータの再生精度が低下する。つまり、デジタルデータのエラーレートが  $\beta$  値に依存して変化する。従って、そのエラーレートが所定の許容値以下になるように、アナログ信号 d 1 の  $\beta$  値を最適値に選択しなければならない。アナログ信号 d 1 の  $\beta$  値は光ディスク 30 の記録マークの光学的反射率及び形で実質上決まるので、半導体レーザ 1 a から照射されるレーザ R 1 の記録パワーで決まる。逆に、アナログ信号 d 1 の  $\beta$  値を決めると、それらに対応する記録パワーを決定できる。アナログ信号の  $\beta$  値と記録パワーとの対応関係を記録パワー条件という。

#### 【0085】



光ディスク 3 0 は、規格上定められた標準記録ストラテジ及び標準記録パワー条件と共に、過去に行われたデータ記録における記録ストラテジ及び記録パワー条件の履歴を所定領域に記録している。記録ストラテジ復調部 6 は、PLL 5 により出力されたデジタル信号 d 5 から記録ストラテジ d 6 を復調し、記録ストラテジ補正部 7 へ出力する。一方、記録パワー条件復調部 1 0 は、デジタル信号 d 5 から記録パワー条件 d 1 0 を復調し、記録パワー決定部 1 2 へ出力する。

#### 【0 0 8 6】

ジッタ検出部 2 0 は、二値化器 4 からデジタル信号 d 4 a を、PLL 5 からデジタル信号 d 4 のクロック信号からのずれ、すなわちジッタ d 5 a を、それぞれ入力する。それらの入力に基づいて、ジッタ検出部 2 0 は、デジタル信号 d 4 のパルス前端でのジッタ d 2 0 a、及び後端でのジッタ d 2 0 b を検出し、記録ストラテジ補正部 7 へ出力する。

#### 【0 0 8 7】

記録ストラテジ補正部 7 は、入力した記録ストラテジ d 6 を内部のメモリ（図示せず）に記憶する。更に、記憶した記録ストラテジの補正時、デジタル信号 d 4 のパルス前端でのジッタ d 2 0 a 及び後端でのジッタ d 2 0 b をそれぞれ所定の許容値と比較する。その比較結果を、記録ストラテジ補正部 7 は、その時記憶している記録ストラテジに対応づけて前記メモリへ記憶する。その後、記録ストラテジ補正部 7 は、その記録ストラテジを所定の補正值だけ補正する。補正後、その記録ストラテジ d 7 を記憶すると共に、記録パルス決定部 9 へ出力する。

#### 【0 0 8 8】

##### 〔DVD-R へのタイトル記録動作〕

本実施形態にかかる情報記録再生装置（DVD-R レコーダ）では、次のようにしてタイトル記録を実行する。

#### 【0 0 8 9】

図 5 は、本実施形態にかかる情報記録再生装置（DVD-R レコーダ）が、光ディスク 3 0 として DVD-R を用い、これにタイトルを記録する動作を示すフローチャートである。

#### 【0 0 9 0】

##### ＜ステップ S 1＞

まず、DVD-R を DVD-R レコーダへ装着する。

#### 【0 0 9 1】

##### ＜ステップ S 2＞

DVD-R の装着の検知後、DVD-R をスピンドルモータ 1 4 で回転させる。ピックアップ 1 はまず、DVD-R の RMA を参照し、RMD を読み出す。

#### 【0 0 9 2】

##### ＜ステップ S 3＞

DVD-R レコーダのユーザが、記録速度設定部 1 7 により記録速度を設定する。具体的には、標準記録速度  $3.49 \text{ m/s}$  に対する設定記録速度の倍率を示す正の整数  $n 0$  が、設定記録速度情報として入力される。

#### 【0 0 9 3】

##### ＜ステップ S 4＞

記録速度情報復調部 1 5 により、RMA 内の RMD の一つから記録速度情報を読み出す。好ましくは、最新のものから順に読み出される。この時読み出された記録速度情報は、上記の通り、標準記録速度  $3.49 \text{ m/s}$  に対する記録速度の倍率を示す正の整数  $n$  である。

#### 【0 0 9 4】

##### ＜ステップ S 5＞

記録速度情報  $n$  と設定記録速度情報  $n 0$  とを比較する。記録速度情報  $n$  が設定記録速度情報  $n 0$  より大きい場合は、処理をステップ S 6 へ進める。それ以外の時は、処理をステ



ップ S 8 へ進める。なお、RMA 情報がない場合は、記録速度情報 n 0 が予め設定した記録速度 n より大きい場合は S 6 に進み、小さい場合は S 8 に進む。

【0095】

ステップ S 4 で読み出した記録速度情報と同じ OPC 情報から、記録ストラテジ復調部 6 により記録ストラテジを、記録パワー条件復調部 1 0 により記録パワー条件を、それぞれ読み出す。記録ストラテジ復調部 6 は記録ストラテジ d 6 を記録ストラテジ補正部 7 へ出力する。記録ストラテジ補正部 7 は記録ストラテジ d 6 を補正せずにそのまま内部のメモリに記憶した後、記録パルス決定部 9 へ出力する。一方、記録パワー条件復調部 1 0 は記録パワー条件を記録パワー決定部 1 2 へ出力する。

【0096】

＜ステップ S 6＞

DVD-R の外周部へ光ピックアップ 1 を移動させ、外周 PCA 内で既に記録された領域を読み取り、パワー校正を実行するための、外周 PCA の未記録領域をサーチする。書き換え型のディスクの場合は、PCA の記録領域を使い切った場合は上書きするが、DVD-R/RW では、記録領域がどこまで使用されているかの情報は存在しないため、外周 PCA を再生することにより、未記録領域をサーチする。なお、このとき、外周 PCA に既に記録されているテスト記録パターンも読み出す。

【0097】

＜ステップ S 7＞

DVD-R の外周 PCA の記録開始位置はラストアドレス情報に基づいて決定され、外周 PCA の最外周から記録される。記録される信号は、8 - 1 4 変調ランダム信号や、3 T 信号と 1 4 T 信号の混合パターン等である。記録パワーは記録再生装置が 0. 5 mW ステップで記録パワーがスイープされ、1 ECC ブロック (= 1 6 セクタ) 内で記録が完結するようになる。記録後直ちに再生を行い、その結果、最も特性のよい記録パワーと  $\beta$  値を選択する。

【0098】

＜ステップ S 8＞

決定された記録速度で、内周 PCA でテスト記録可能かどうか判断する。記録速度が高い場合や、内周 PCA で特性が得られない場合は、ステップ S 6 に進み、外周 PCA へ移動してテスト記録する。

【0099】

＜ステップ S 9＞

内周 PCA で最適パワーを算出するため、OPC が実行される。

【0100】

＜ステップ S 1 0＞

記録パワー決定後は、RMA より復調された記録ストラテジおよびメモリに記録された記録ストラテジでテスト記録を行う。この際、記録速度に応じたテスト記録が内周 PCA および外周 PCA で記録される。

【0101】

＜ステップ S 1 1＞

記録ストラテジを決定する。

【0102】

＜ステップ S 1 2＞

ストラテジを決定した後、内周に移動してデータ記録を開始する。

【0103】

＜ステップ S 1 3＞

データ記録終了後、内周と外周で PCA に記録された最適記録情報を RMA および記録再生装置のメモリに記録する。

【0104】

以上のステップ S 1 ～ S 1 3 により、DVD-R へのタイトル記録が完了する。

## 【0105】

なお、ステップS10では、DVD-R30から推奨記録ストラテジ及び推奨記録パワー条件を読み出す。ここで、推奨記録ストラテジ及び推奨記録パワー条件としては、例えば、次のようなものを選択できる。DVD-R30のRMDのフィールド#1を参照し、ドライブに関する情報を読み出す。それらの情報から、DVD-R30に記録された記録ストラテジ及び記録パワー条件の内、同じDVD-Rレコーダで記録されたものがあるかどうか判別する。もしあれば、それらを推奨記録ストラテジ及び推奨記録パワー条件として採用する。その他に、同じ機種種のDVD-Rレコーダで記録された記録ストラテジ又は記録パワー条件があれば、それらを採用しても良い。

## 【0106】

こうして、本実施形態にかかるDVD-Rレコーダは、新たなタイトル記録時、DVD-R30に記憶された履歴から、設定記録速度と等しい記録速度での記録時に採用された記録ストラテジ及び記録パワー条件を読み出して再び採用できる。それにより、記録ストラテジ及び記録パワー条件の最適値からのずれの内、記録速度の相違に起因する部分を補償し直さなくても良い。その結果、記録ストラテジ及び記録パワー条件の決定を早くできる。また、外周PCAと内周PCAの両方の情報を共有比較できることから高速記録に対応した記録条件を精度良く決定することができる。

## 【0107】

DVD-RやDVD-RWディスクが記録再生を行う際、線速度一定のCLV (constant linear velocity) 方式のため、外周でのディスク回転数に比べて、内周での回転数は半径に反比例して上昇する。ディスクを高速で回転させると、モータ回転音や振動が増大しメカノイズが発生することから、内周から中周の所定の半径位置までは、低速で記録し、中周から最外周では高速で記録するZone CLV方式が採用されている。Zone CLV方式の場合、例えば内周側は4倍速で記録し、外周側は8倍速で記録するためには、内周PCAで4倍速のテスト記録を行った後、外周PCAで8倍速のテスト記録を行い、最適記録パワーや $\beta$ 値を決定後、データ領域での記録を開始することも好ましい。もちろん、中周は6倍速で記録してもよい。6倍速を内周PCAと外周PCAのどちらを使用するかは、記録再生装置のディスクを回転させるモータ回転数の上限性能やサーボの面振れ、偏芯の追従性能によって判断される。

## 【0108】

データ記録終了後、内外周PCAで決定した最適記録パワーや $\beta$ 値などの記録履歴情報を内周にある記録管理情報 (RMD: Recording Management Data) 領域に、内外周PCAのどちらの領域で記録したかの選択情報および記録速度を関連付けして記録することも好ましい。これにより、そのディスクを記録再生装置より一旦取り出した後に、再度挿入して記録開始する際にも、RMDを見ることによって、内外周での記録パワーが分かる。従って、テスト記録は不要となり、記録開始時間を短縮することができる。また、DVD-Rの様なライトワンス系のディスクではPCAが有限であるが、上記の校正によれば、ディスクを脱着する度にテスト記録を行う必要がなくなり、PCAを消費する心配がない。

## 【0109】

また、DVD-Rの様な有機色素系のディスクでは、スピンコートで色素膜が形成されるため、内外周で膜厚の違いが発生し、記録感度の差が発生してしまう。これに対して、内周PCAで低速記録し、外周でも同じ低速で記録し、ディスクの記録パワーの感度の差を直線近似することにより、例えば中周までの記録パワーを補正することができる。内周では高速記録はできないが、同じ様に直線近似式を高速記録する際にも適応することによって、例えば中周から最外周までの記録パワーを補正することができる。

## 【0110】

また、外周側PCAに記録されたテスト記録パターンを内周PCAにコピーすることによって、外周PCAがディスク表面の傷や汚れによって再生できない状態になった場合でも、内周にテスト記録パターンが残っていれば、指定された記録速度に対して高速記録可

能である。同じ様に、内周 P C A の情報を外周 P C A にコピーすることによって、内周 P C A がディスク表面の傷や汚れによって再生できない状態になった場合でも、外周 P C A にテスト記録パターンが残っているため、低速記録可能である。また、P C A だけでなく R M A も外周側に設け、R M A の記録管理情報も、内周 R M A と外周 R M A で互いにコピーしておくことがさらに好ましい。

#### 【0 1 1 1】

外周 P C A に記録されたテスト記録パターンを内周 P C A にコピーするのは、(1) 外周 P C A の記録終了後、データ領域へのデータ記録前と、(2) データ領域へのデータ記録終了後、との二つの場合があるが、記録開始までの時間を短縮することを考えると、(2) のタイミングでコピーすることが望ましい。また、内周 P C A に記録されたテスト記録パターンを外周 P C A にコピーする際も、同様である。さらに、R M A の記録管理情報を内周と外周で互いにコピーする際も同様である。

#### 【0 1 1 2】

記録再生装置にディスク挿入後、内周 P C A でのパワー校正と外周 P C A でのパワー校正のどちらを先に実行するかはドライブ設計により異なるが、内周 P C A の頻度が多いため、内周 P C A でのパワー校正を先に実行し、高速記録の指令が出てから外周 P C A でのパワー校正を実行することも好ましい。また、内周では高速での記録再生が困難であるため、テスト記録パターンを内周では低速で再生し、外周では高速で再生することによって、読み取り時間の短縮を図ることができる。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0 1 1 3】

本発明は高速で記録する D V D - R 、 D V D - R A M 、 D V D - R W 、 D V D + R 、 D V D + R W 等の記録型 D V D や、青色レーザを使用したブルーレイディスクや A O D 等、光ディスクを用いる記録再生装置に適用可能である。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0 1 1 4】

【図 1】 外周 P C A とレコーダブルエリアの関係

【図 2】 D V D - R 論理フォーマットの概念図

【図 3】 P C A 記録選択の概念図

【図 4】 (a) は 8 倍速記録時の半径位置とジッタの関係、(b) は 8 倍速記録時の半径位置と記録パワーの関係を示すグラフ

【図 5】 情報記録再生装置の動作を表すフローチャート

【図 6】 従来の D V D - R の内周 P C A の概念図

【図 7】 従来の D V D + R W の外周 P C A の概念図

【図 8】 従来の光ディスク記録再生装置の一例を示すブロック図

#### 【符号の説明】

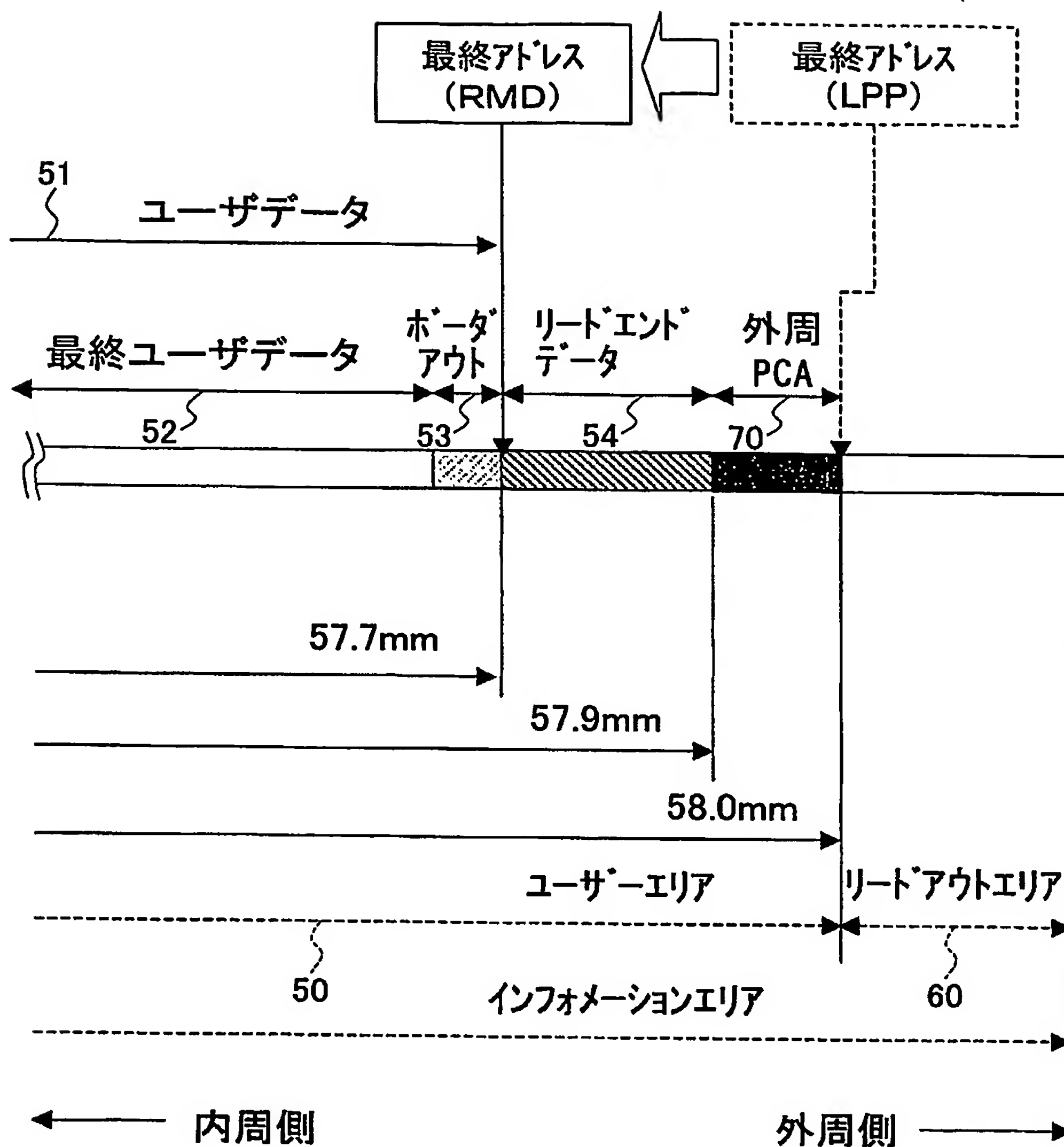
#### 【0 1 1 5】

- 1     ピックアップ
  - 1 a   半導体レーザ
  - 1 b   集光レンズ
  - 1 c   スプリッタ
  - 1 d   対物レンズ
  - 1 e   検出レンズ
  - 1 f   光検出器
- 1 4   スピンドルモータ
- 3 0   D V D - R
- 5 0   ユーザエリア
- 6 0   リードアウトエリア
- 7 0   外周 P C A
- 5 4   リードエンドデータ

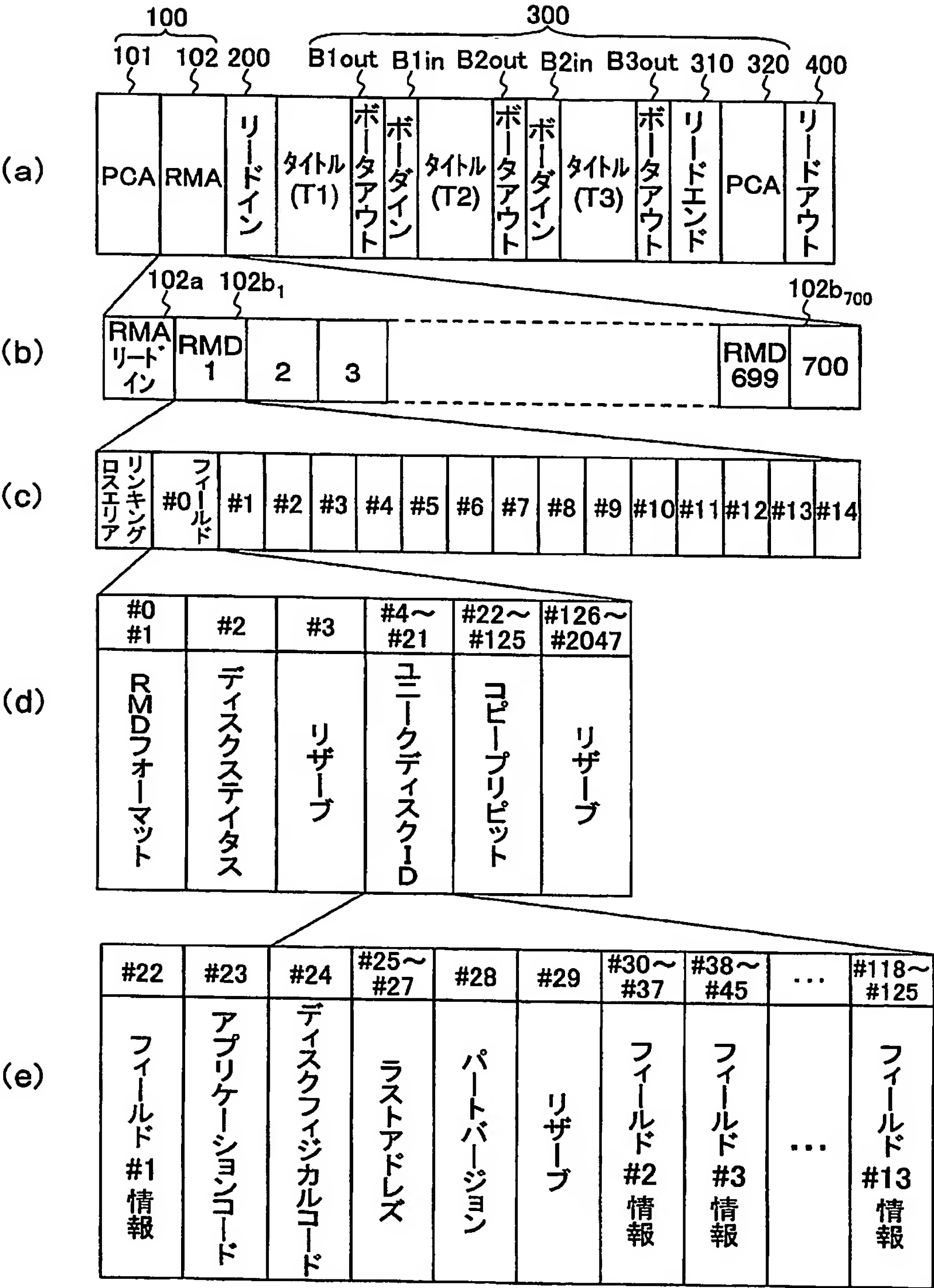
5 1, 5 2 ユーザデータ  
5 3 ボードアウト



【書類名】 図面  
【図 1】



【図 2】

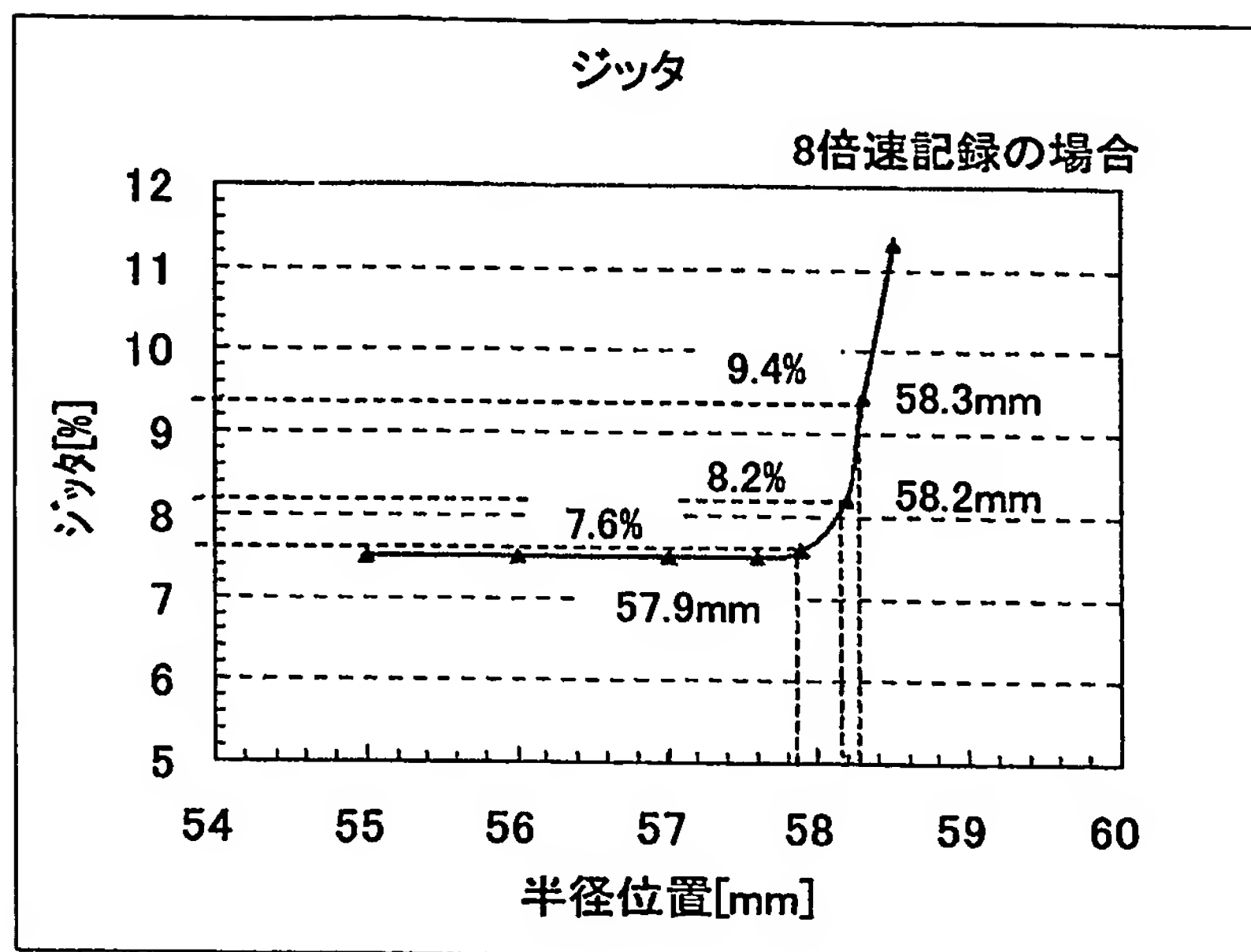


【図 3】

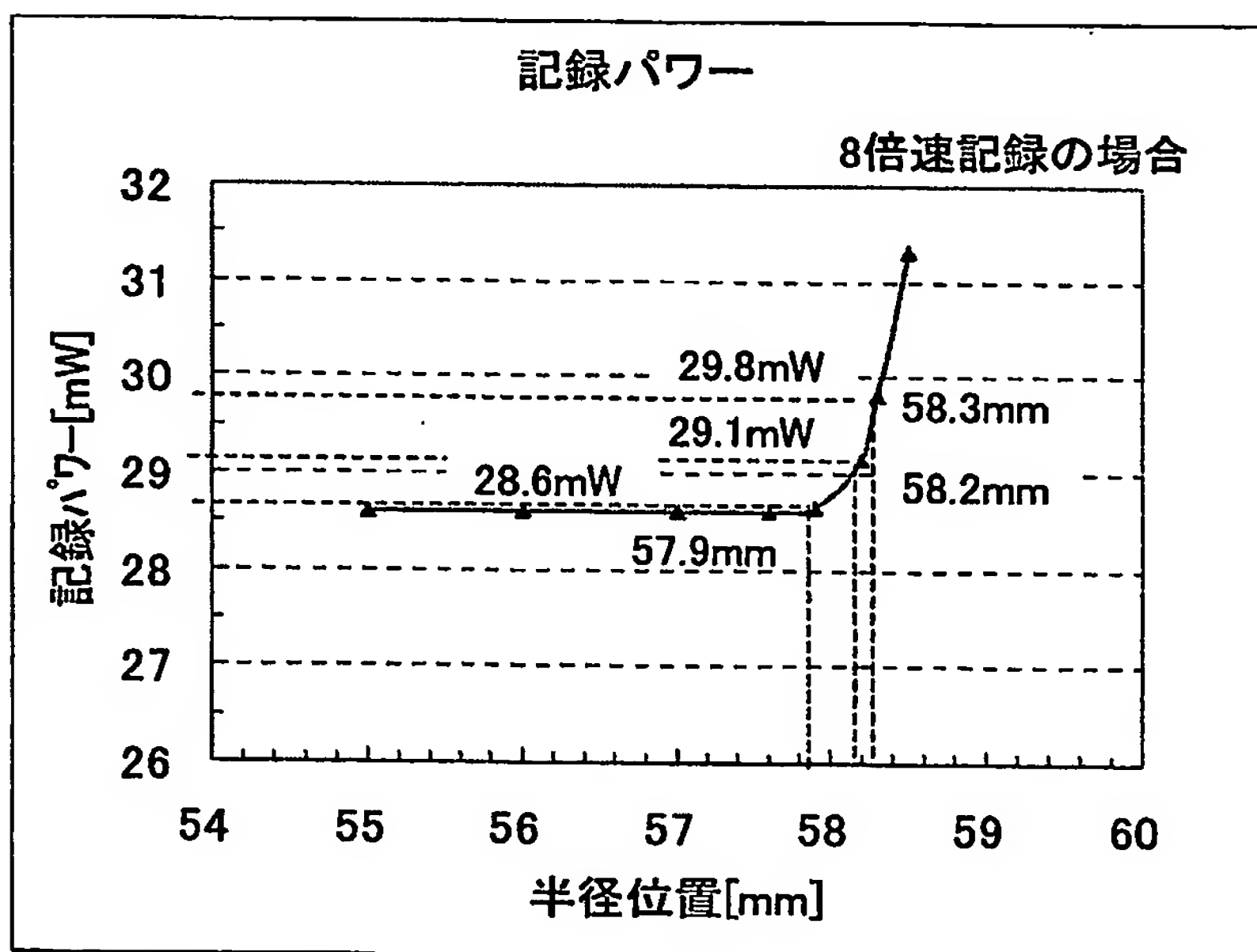
ケース	第1記録 ドライブ	第2記録 ドライブ	レコーダブル エリア
1	外周 PCAを 使用	外周PCA を使用	第1記録 ドライブに て変更
2	外周 PCAを 使用	内周PCA のみ使用	
3	内周 PCAのみ 使用	外周PCA を使用	第2記録 ドライブに て変更
4	内周 PCAのみ 使用	内周PCA のみ使用	LPP フィールドと 同等

【図 4】

(a)

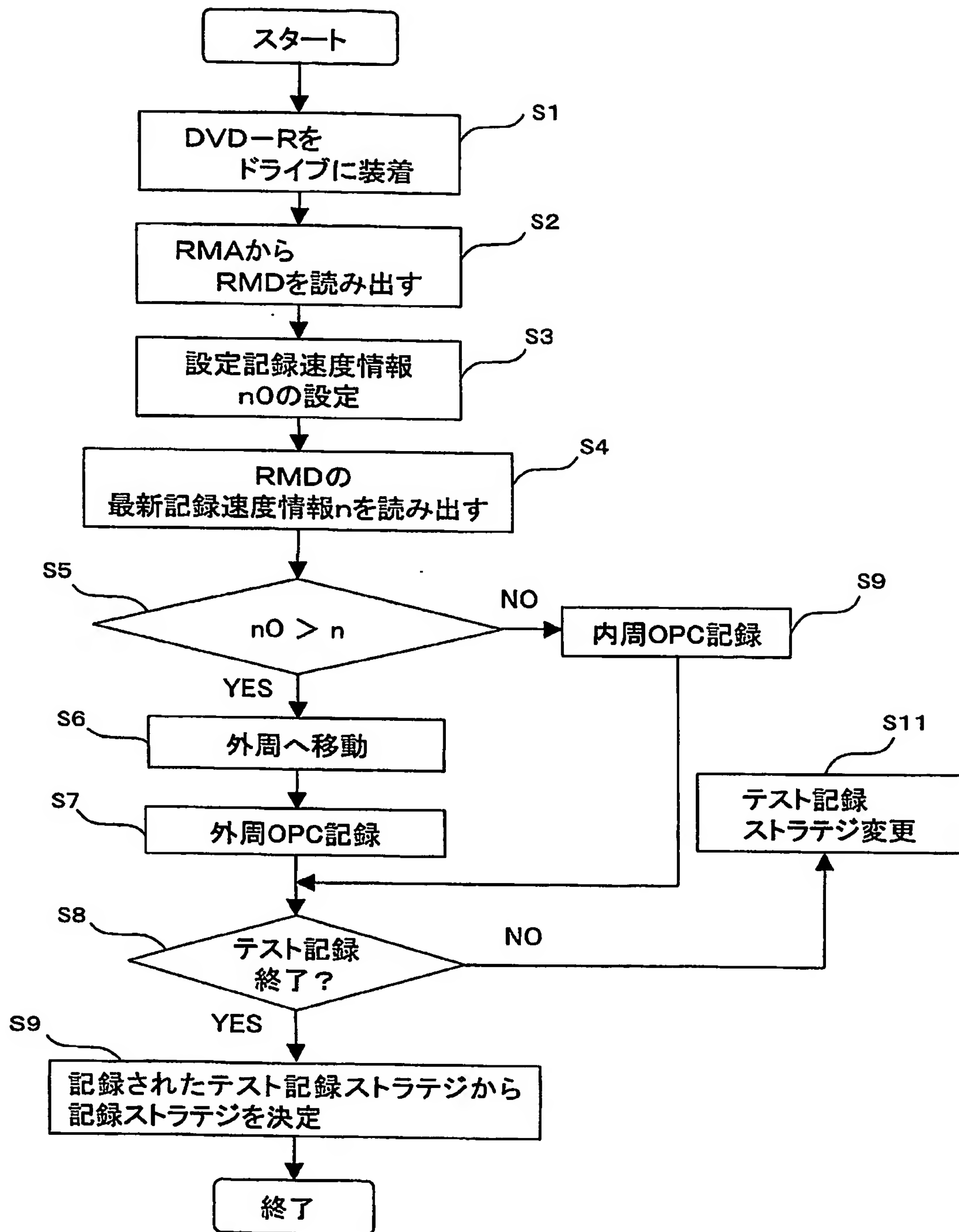


(b)

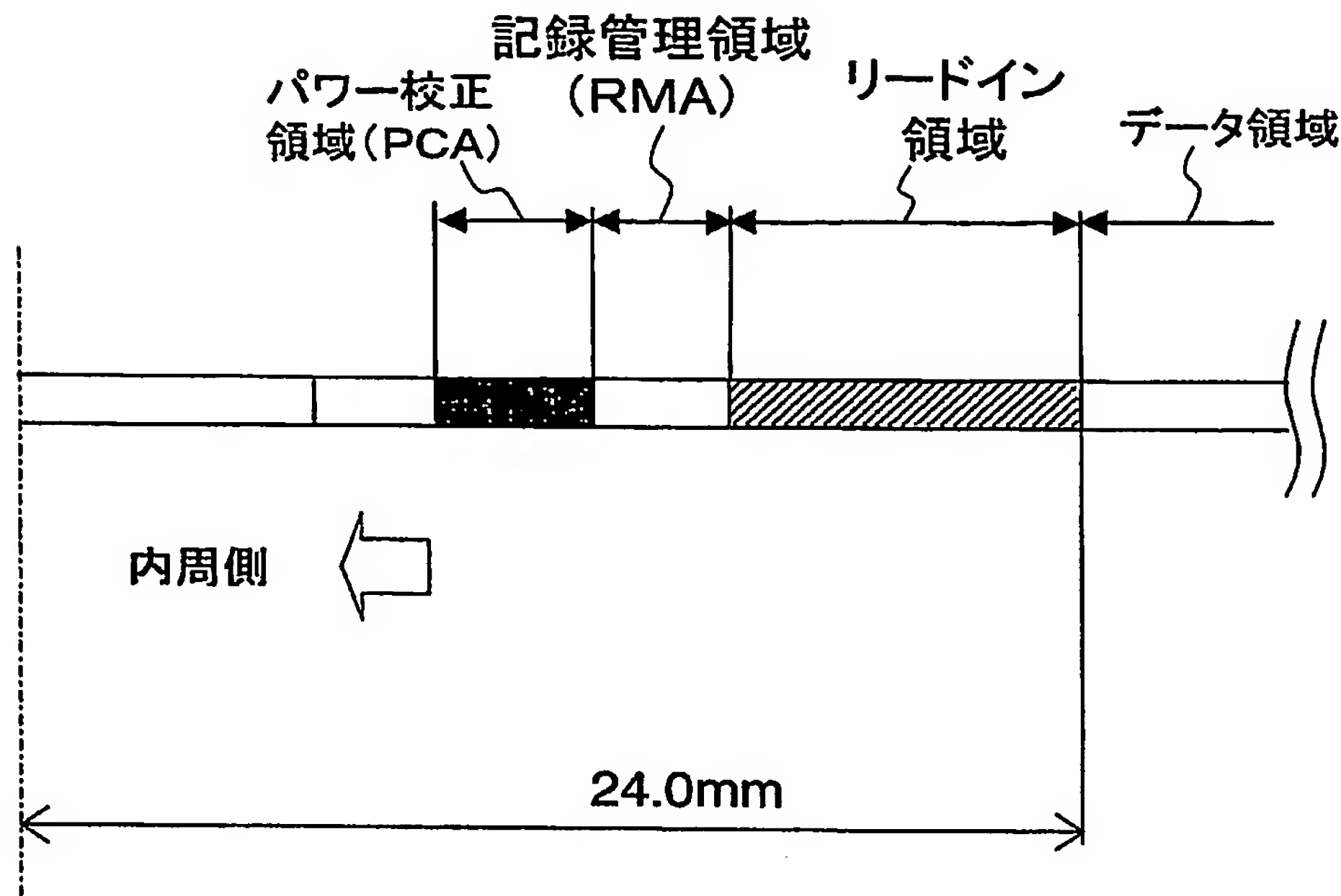




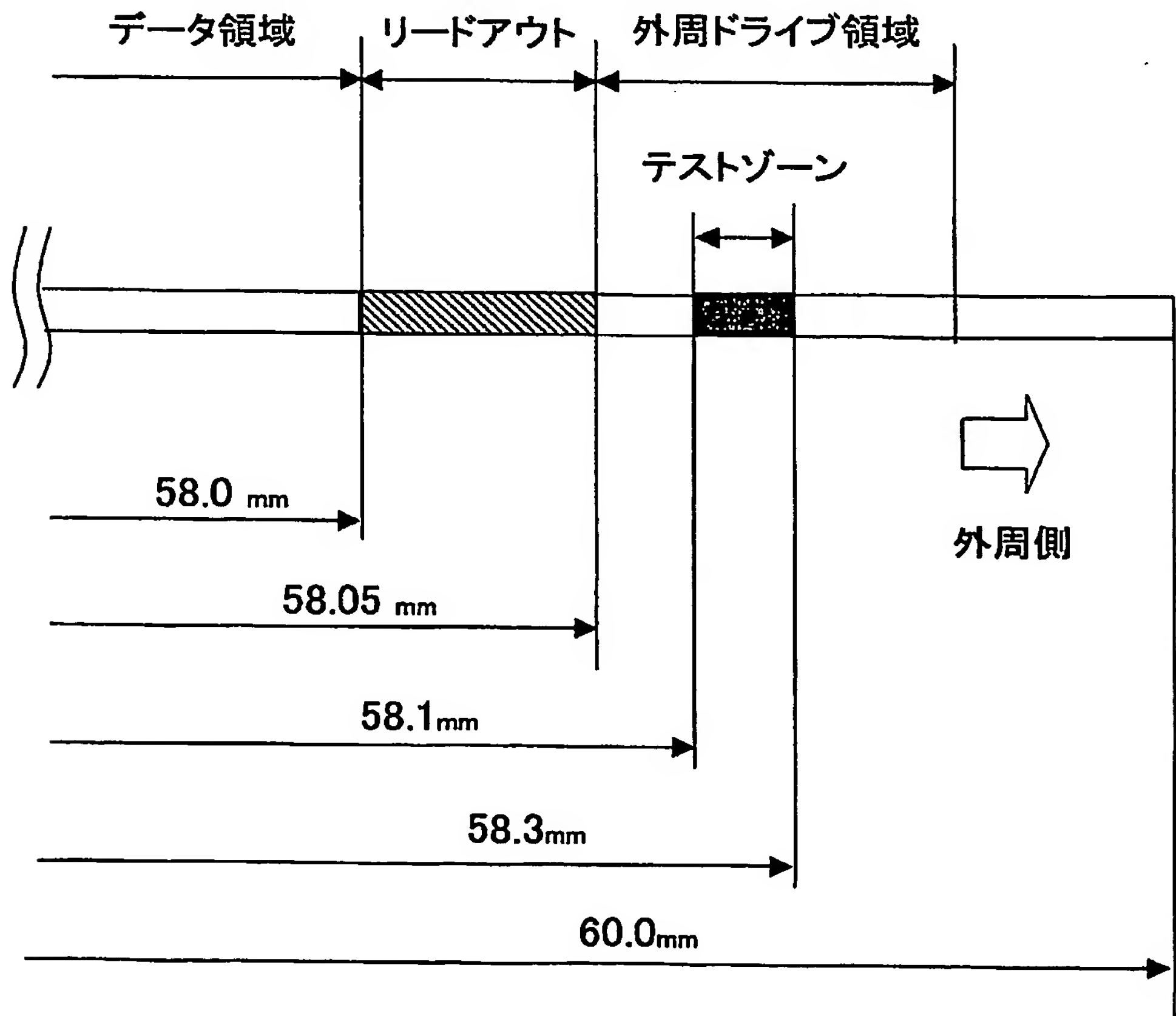
【図5】



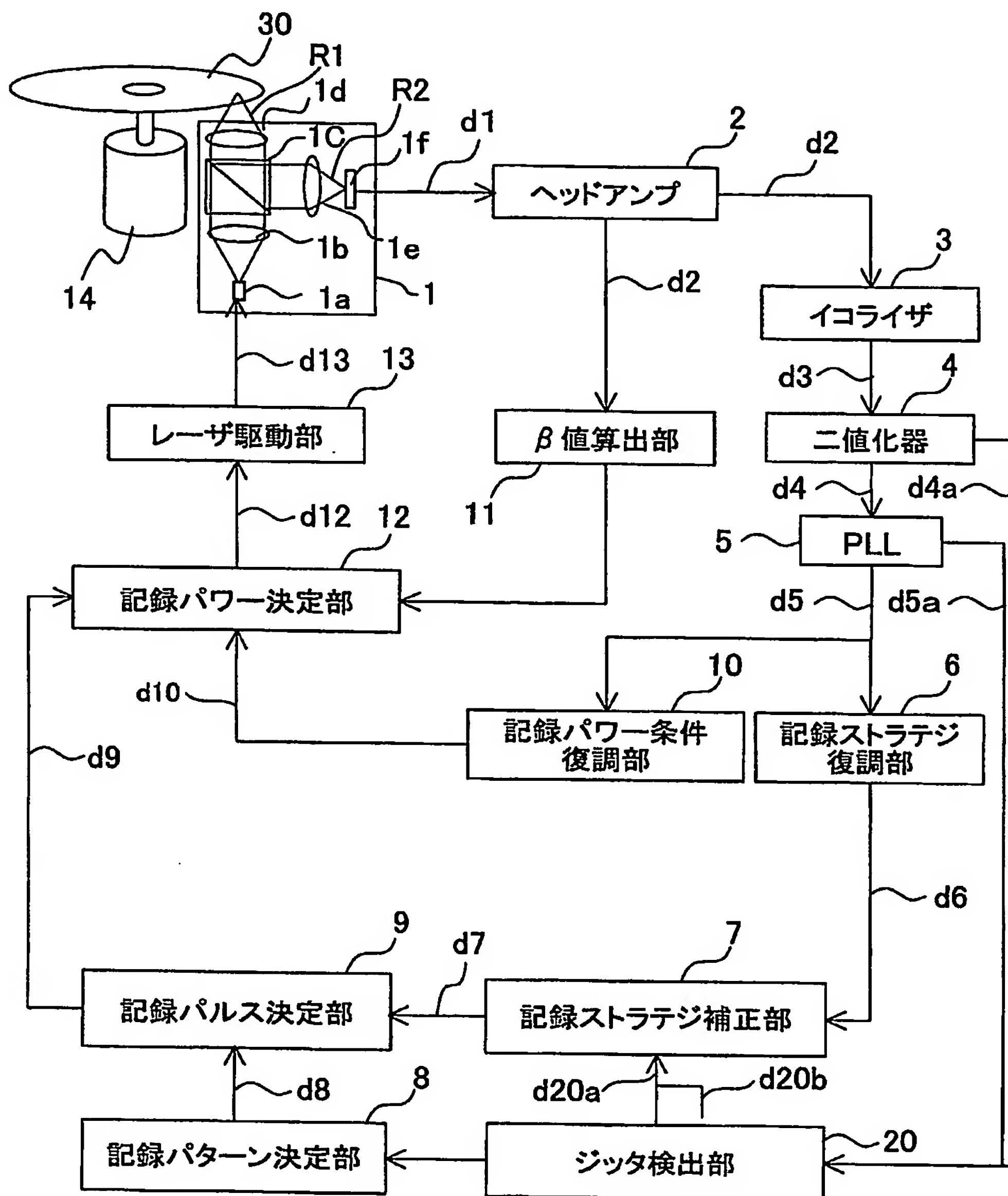
【図 6】



【図 7】



【図 8】



## 【書類名】 要約書

## 【要約】

【課題】 信頼性が高いパワー校正領域を備えた情報記録媒体とこれを用いる情報記録再生装置を提供する。

【解決手段】 データ領域 5 0 と、データ領域 5 0 の外周に設けられたリードアウト領域 6 0 と、データ領域 5 0 の内周側に設けられたリードイン領域と、前記リードイン領域よりも内周側に設けられテスト記録パターンが記録される第 1 のパワー校正領域と、前記第 1 のパワー校正領域に関する記録管理情報が記録される記録管理領域とを備えた情報記録媒体において、前記データ領域と前記リードアウト領域との境界部に、第 2 のパワー校正領域 7 0 を設ける。

特願 2 0 0 3 - 4 3 4 8 4 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 5 8 2 1 ]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 2 8 日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地
氏 名	松下電器産業株式会社



# Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/019335

International filing date: 24 December 2004 (24.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP  
Number: 2003-434840  
Filing date: 26 December 2003 (26.12.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 03 March 2005 (03.03.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland  
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse